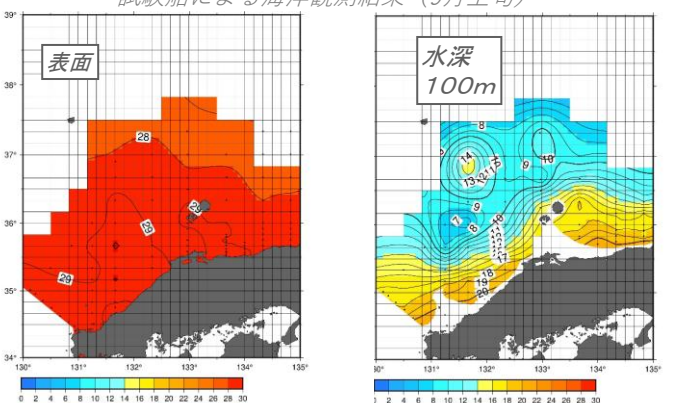
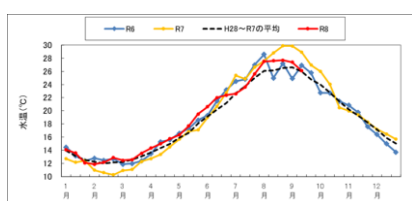
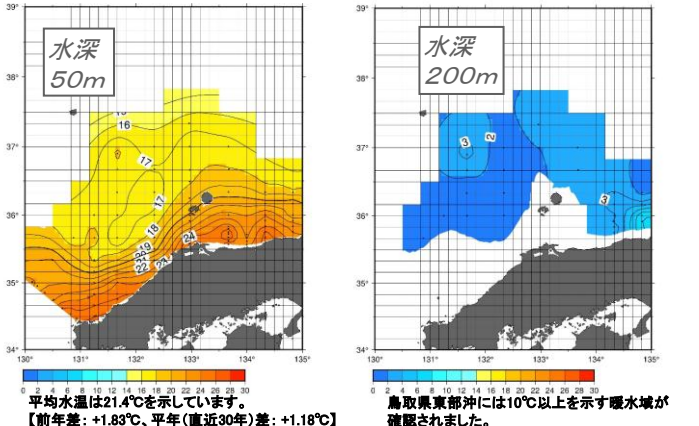




鳥根沖冷水(点線範囲内)の平均水温は28.9℃を示しています。
【前年差: +0.36℃、平年(直近30年)差: +2.60℃】

平均水温は16.6℃を示しています。
【前年差: +0.70℃、平年(直近30年)差: +0.42℃】



平均水温は21.4℃を示しています。
【前年差: +1.83℃、平年(直近30年)差: +1.18℃】

鳥取県東部沖には10℃以上を示す暖水域が確認されました。

水産試験場

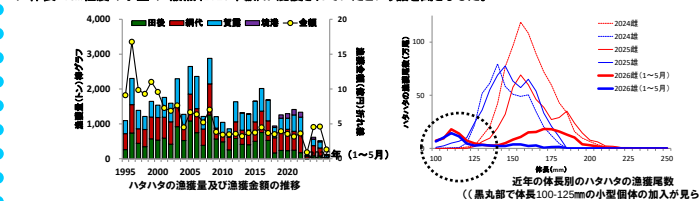
沖合底曳網漁(2026年漁期)の解禁後の水揚げ状況

今期も沖合底曳網漁が解禁となり、網代・賀露・境港で随時、市場調査を行っています。解禁当初は網代、賀露でハタハタが、境港ではノドグロ等を中心に水揚げが見られました。9月中旬以降はハタハタの漁獲が下火になり、マダラ、ホッコクアカエビ、ソウハチ、ニギス、ヒレグロ等を中心に様々な魚種の水揚げが見られています。

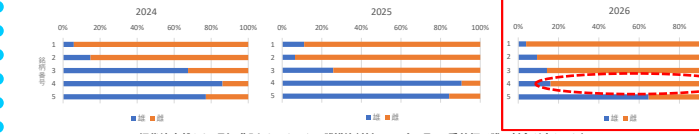


9月4日の賀露地方卸売市場のハタハタの水揚げ
9月16日の網代地方卸売市場のアカエビの水揚げ
9月24日の境港水産物地方卸売市場のマダラの水揚げ

【ハタハタの漁獲動向】



2023年の大不漁(例年の1/10程度の漁獲量)以降も、年間水揚げが2022年以前の半分程度の水準の水揚げで推移しています。昨漁期は漁期終盤の5月中旬頃からハタハタのまとまった水揚げがありました。また、2月頃から豊漁となったホタルイカ漁で、網に体長10cm程度の小型の1歳魚(2025年産)が混獲されていたという話を聞きました。



今期は賀露、網代では④～⑤の小型銘柄が主体に水揚げが見られ、前年漁期に加入が見られた小型個体が漁場に留まり漁獲サイズに成長していると推測されます。一方で、市場関係者、漁業者の方々から今期水揚げされるハタハタは卵も持った雌の割合が高いといった声を多く聞きました。以下のとおり毎年9月に網代船から購入したハタハタを測定した結果から、雌雄比を見ることや小型の4番銘柄で今期は特に雌の割合が高い傾向にあり(ハタハタは雄より雌の方が大型になり、小型銘柄では雄の割合が高い)。

はたして、この現象が今後のハタハタの漁獲動向にどのように関係してくるかはわかりませんが、今後も市場調査等を通じて、ハタハタの資源動向を注視していこうと思います。

令和8年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136

電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424

境港営業所 鳥取県境港市栄町92番地1 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

9月上旬の水塊配置と対馬暖流

鳥根沖冷水 隠岐諸島北方 山陰・若狭沖冷水

鳥根沖冷水域	11℃以下の冷水域は、N35°30'以北に認められ、平年(直近10年)と比べ、やや接岸傾向でした。
隠岐諸島北方の冷水域	11℃以下の冷水域は、N36°20'以北に認められました。
山陰・若狭沖冷水域	11℃以下の冷水域は、N36°30'以北に認められ、平年と比べ、やや接岸傾向でした。
対馬暖流の流路	主流の一部は、鳥取県沖の冷水域に沿って鳥根半島から東に向かい流れると考えられます。 山陰・若狭沖冷水域は平年よりやや接岸傾向であるため、流路と岸の距離は平年より接岸していると考えられます。

境港水産事務所

「第40回 境港水産まつり」開催決定！

令和8年10月11日(日)

第40回 境港水産まつり

安全・安心・新鮮

お申し込み先 一般社団法人境港水産物卸売市場 0859-44-6666

日時: 10月11日(日)8:00~14:00

会場: 境港水産物地方卸売市場 境港水産物直売センター

今年で40回目となる境港水産まつりが開催されます！

セリ即売体験やマグロ解体ショー、大抽選会等のイベント盛りだくさん！

水産学習コーナーでは、「スワイガニとオオスワイガニの比較展示」や「ベニスワイガニの美味しい食べ方教室(小学生限定・抽選)」を実施します。

イベントを通じて、来場者の方々に境港のさかなやカニについて知っていただければと考えておりますので、ぜひお越しください！

昨日の水産まつりの様子

10月11日(日)8:00~14:00

会場: 境港水産物地方卸売市場 境港水産物直売センター

栽培漁業センター

廃校活用の新たな取組、「奥大山サーモン」養殖が始動！

鳥取県では、平成24年頃から陸上養殖を推進しています。近年は、トラフグやチョウザメ、バナメイエビなどの新魚種に挑戦する事業者も増え、これまでに9経営体で陸上養殖が行われてきました。そして今年9月からは江府町で「奥大山サーモン」の養殖が始まりました。奥大山の清涼な地下水と廃校の体育館を活用し、循環濾過方式の養殖設備とアクアポニックスの栽培槽が整備されています。ニジマスの稚魚を養殖し、濾過した飼育水を利用してパセリやミントなどのハーブや野菜を同時に生産するものです。「奥大山」の銘水とその圧倒的なネームバリューを活かし、さらにはアクアポニックスを加えた新たな挑戦に、今後の注目が集まります。



共和水産株式会社

代表取締役 橋津 寛

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地

TEL:0859-44-7171(代) FAX:0859-42-6530